

2024年度
八戸学院大学
地域経営学部 地域経営学科
学校推薦型選抜

小論文

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開かない。
- 2 筆記用具は黒色の鉛筆またはシャープペンシルを使用する。
- 3 問題冊子に印刷不鮮明、ページの落丁などがあるときは、手を挙げて監督者に伝える。
- 4 問題冊子の余白等は適宜利用してよい。
- 5 問題冊子は持ち帰ってよい。

問 課題文を読み、以下の(1)、(2)に答えなさい。

- (1) 課題文の内容を参考とし、ポストコロナの令和時代にいて「つながり・支え合い」のある地方共生社会を実現するために求められる取組の方向性について 300 字から 400 字以内でまとめなさい。
- (2) 世代や属性、支える側、支えられる側を超えた「つながり・支え合い」を創出するためには、たとえばどのような取り組みが必要だと思われるのかについて、課題文の内容を踏まえ、自身の考えを 300 字から 400 字以内で述べなさい。

「地域共生社会の実現に向けて」

地域・家族・雇用や日常の様々な場面における人々のつながりの変化を背景に、いくつかの分野を横断する課題や、属性別に展開されてきた公的な制度では支援が難しい制度の狭間の課題などが表面化している。

制度が長く続いてくると、その存在を前提に、「制度から人を見る」観点に傾斜しがちであるが、このような新たな課題に対応するためには、「その人の生活を支えるために何が必要か」という観点を改めて重視することが必要である。

また、私たちの生活の安定を脅かすリスクは、誰にでもいつでも起こり得るものである。このことを関係機関や地域住民一人ひとりが意識しながら、お互い助け合うことができる地域づくりに自分ごととして取り組むことが重要である。

こうした観点を踏まえ、制度・分野ごとの「縦割り」や「支え手」「受け手」という関係を超えて、ポストコロナの令和時代において「つながり・支え合い」のある地域共生社会を実現するために求められる取組みの方向性について考えてみたい。

（ポストコロナの令和時代に求められる新たな「つながり・支え合い」の在り方）

「つながり・支え合い」の概念は拡がりを見せており、これまで見てきたような様々な課題に対応していくためには、ポストコロナの令和の時代における新たな「つながり・支え合い」を創出し、人々がつながりをもちながら安心して生活を送ることのできる地域共生社会を実現することが求められる。

まず、世代や属性、「支える側」、「支えられる側」を超えて、包摂的（インクルーシブ）な「つながり・支え合い」を創出することが重要である。誰にでも起き得るであろう多様化し複雑化する課題に対応するためには、支援が必要な方の状況や希望に応じて、支援方法や支援経路も多様であることが求められる。このため、多様な新しいチャンネルを通して、全ての人に「つながり・支え合い」を創出することが重要であり、そのための取組みの方向性として、①属性を問わない相談支援やアウトリーチを始めとする「包括的な支援体制」の構築、②暮らしの基盤である「住まい」から始まる支援、③デジタルも含め様々な人が交差する「居場所」づくりの推進、が考えられる。

また、複雑化する課題に対して、より多くの主体の参画によって様々な分野・視点からの支援を行うとともに、「つながり・支え合い」を継続的、自律的なものにするためにも、人々が支援の関わり方を自主的に選択し、意欲・能力が十分発揮できるような「つながり・支え合い」を創出することが重要である。そのための取組みの方向性として、①ライフスタイルや興味・関心、得意分野を活かした参画、②デジタル、ICTを活用した地域社会への参画、が考えられる。

参考文献

第3章「つながり・支え合い」のある地域共生社会の実現を目指して

『令和5年版厚生労働白書—つながり・支え合いのある地域共生社会—』

<<https://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/22/dl/1-03.pdf>>